

日本サービス・ラーニング・ネットワーク 2026 年度第 1 回研究会のお知らせ

日本サービス・ラーニング・ネットワークの 2026 年度研究会では、昨年度に引き続き、「批判的サービス・ラーニング」をテーマとして、「サービス・ラーニング」と意識されていない類似の学校（大学等も含む）地域協働実践をも広く取り上げ、それらがもつ社会変革性や、教育実践と地域実践とのジレンマについて、論究することを目指しています。参加者のみなさんが、「わたしの「批判的サービス・ラーニング」的視点」を磨く時間帯を共有するひと時となれば、と考えています。

今年度第 1 回研究会は、岡山大学の柴川弘子さんによる「公民館×教職課程の多文化共生サービス・ラーニング実践」と題した話題提供を契機に、参加者どうしの意見交換を重視した時間としたいと考えています。

日時：2026 年 9 月 25 日金曜日 14 時から 16 時まで

会場：オンライン開催

（お申込みいただいた方に、直前に、Zoom の URL をお知らせいたします）

費用：無料

申込：以下の Google Form に必要事項をご入力ください。

<https://forms.gle/VZhEnhc28FZV9Ean6>

話題提供

講師：柴川弘子さん（岡山大学教育学域助教）

論題：「公民館×教職課程の多文化共生サービス・ラーニング実践」

言語：日本語

概要：

岡山大学教育学部では、現 4 年生が入学した年度にカリキュラム改革が行われた。そのプログラム全体は学部として策定されたものだが、その中に 3 年次でサービス・ラーニングを組み込むことを報告者が提案し、シラバスの設計から具体的な進め方を考案・運営してきた。

1・2 学期には、サービス・ラーニングの理念や意義を学び、既存の講座見学やフィールド訪問を通じて履修生各自の問題意識を醸成する期間を設けた上で、4 学期に、教育実習を終えた 3 年生自身の企画による、エジプト・Global Kominkan とオンラインで結んだ異文化理解講座を岡山市立北公民館で 2 回実施した。同地区は岡山市内で移民家族の受け入れ

が最も多い地域の一つであり、地域の子どもや保護者が数多く参加した。

この実践が可能になった背景には、岡山市が長年培ってきた公民館における ESD 推進の蓄積がある。公民館職員や地域住民との協働の基盤がすでに存在していたからこそ、1 年をかけて問題意識を育ててきた学生たちが、短期間で地域に入り込み、海外パートナーとの交流までも組み込むことができた。

本報告では、こうしたカリキュラムデザインの意図と、地域の「土壌」との掛け合わせによって、実際にどこまで学生・子ども・地域の変容につながったのかを、批判的サービス・ラーニングの視点から検討する。

一方で、実践は依然として「教員が設計し、学生が運営し、地域と海外パートナーが応じる」という非対称な関係の枠内にとどまっており、参加者間の権力の再分配や、社会変革志向の明確化までは十分に到達していない。加えて、公民館そのものが抱える若者・青年層の参画不足という構造的課題、そして子どもたちを対象とした ESD 実践自体がまだ体系化されていないという課題も浮かび上がっている。

本報告では、これらの成果と限界を率直に共有し、参加者と共に、公民館を基盤とした批判的サービス・ラーニングの可能性と次の一手について議論を深めたい。
